

## 心房細動の発症とその後のがん発症率上昇に関連みられる

心房細動、がんはともに世界中で罹患率の高い疾患である。心房細動の診断とその後のがんの診断との時間的な関連について検討することにより、両疾患の共通の原因が明らかになる可能性があり、がんを発症するリスクの高い患者の把握に役立つと考えられる。本研究では、デンマークの男女を対象にコホート研究を実施し、心房細動の発症とその後のがんの発症との関連について検討した。

対象となったのは、試験開始時に心房細動およびがんに罹患していない男性 26,222 例および女性 28,879 例で、心房細動の発症とその後のがんの発症について 2013 年まで追跡した。男性（年齢中央値 56 歳）と女性（同 56 歳）の追跡期間中央値はそれぞれ 16.7 年、19.6 年であった。心房細動は全がんの高リスクと関連がみられた（ハザード比：男性 1.41、女性 1.15）。男性においてのみ、肺がん（ハザード比 1.66）と大腸がん（同 1.37）の高リスクと関連がみられた。男女とも心房細動の診断後 90 日以内のがんリスクはより高く、全がんのハザード比は男性 2.89、女性 3.72、肺がんでは男性 7.70、女性 7.98、大腸がんでは男性 3.35、女性 5.91 であった。

したがって、心房細動の発症がその後のがん発症率の上昇と関連し、とくに心房細動診断後 90 日以内のがん発症率が高いことが明らかとなった。

出典：Journal of the American Heart Association. 2018 Sep 4; 7(17): e009543.